

専攻医
の主張

広島市民病院での後期研修を終えるにあたって

地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 内科 中村 鉄

私は、広島市立広島市民病院で初期研修を終えた後、同院内科で後期研修をしております。専門領域は消化器内科で、日々、内視鏡診療、救急診療、病棟業務、学会活動などに追われていますが、熱心な指導医や頼りになる同僚に恵まれて、充実した研修を送らせていただいています。

私が消化器内科を志したのは、内視鏡診療に魅せられたからです。内視鏡の魅力は、なんといっても診療が楽しいことです。「楽しい」という言葉は少し軽く聞こえるかもしれませんが、内視鏡診療は自分の目で病変を確認し、自分の手で治療を行うため、直接的な達成感や充実感を得られることが私にとって大きなモチベーションになっていると思います。初めて早期癌を発見したときは胸が高鳴りましたし、患者さんに「楽だったよ」と感謝されたときは、言葉にできないほどうれしく感じました。また、指導医の先生やコメディカルの方々の支えがあったからこそですが、自分一人で内視鏡を操作する経験を通じて、ようやく自分も医師として働いているということが実感でき、そのことを何よりありがたく思っています。

一方で、専攻医になり、初期研修医の頃に比べてできることは格段に増えましたが、それに伴い、自らの責任の重大さを痛感します。特に当院では、指導医の先生のご指導のもとで、ESD・ERCP・EMR・止血術など、かなり専門的な内視鏡治療まで携わらせていただいております。

自分の判断や技量が患者さんのアウトカムに影響してしまうと感ずることがあります(そのコントロールをしていただいている指導医の先生には、本当に感謝してもしきれないです)。その責任を果たすためにも、どんなに忙しくても手を抜かず、誠心誠意、患者さんに相對していきたくと考えています。また、指導医の先生から少しでも多くのことを吸収し、今診ている患者さんや将来診るであろう患者さんに還元できるよう努力したいと思っています。

最後に、私を育ててくださった指導医の先生方に感謝するとともに、一緒に研修をしてくれた同僚の先生方にも心からお礼を伝えたいと思います。ほかの病院でもそうだと思いますが、当院での診療はいつもマルチタスクになってしまい、救急外来・病棟・内視鏡室から同時に呼ばれるなんてことは日常茶飯事だったと思います。そんなとき、フットワーク軽く助けてくれるのはいつも同僚の先生方でした。診療では支え合い、勉強では苦手な部分を教え合い、時には飲み会で羽目を外す、そんな仲間に恵まれたことは、私にとって大きな喜びでした。本当にありがとうございました！私は、来年度も広島市民病院で研鑽を積む予定ですが、広島大学の先生方をはじめ、地域の先生方にも引き続きお世話になることと思います。広島の医療に少しでも貢献できるよう精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

コロナ特例の終了について (2028年3月末)

コロナ禍により有効期限内に更新必要単位が充足できなかった認定産業医(有効期限:2020年(令和2年)2月以降)につきましては、更新手続きの特例を設けておりましたが、研修会開催数や認定産業医の更新率が平常時に戻りつつあることから、日本医師会認定産業医制度運営委員会で慎重に議論をした結果、特例措置は2027(令和9)年度末(2028(令和10)年3月末)をもって終了することといたしました(2028年3月末までに必要な単位を取得していること)。

※詳細についてはe-広報室へ掲載しております。